



### 丹波栗

#### 栗の凍害対策について



#### <症状>

樹齢2～5年の栗の幼木は凍害の被害を受けやすくなります。凍害は、暖冬や暖秋の影響で樹が吸水した後に低温にさらされることで4月中旬以降に発生する障害です。発芽しなかったり、発芽しても遅れや揃いがわるかったりなどの症状が見られます。また、樹肌が鮫肌状にザラザラになり、削ると褐変して甘い発酵臭がするのが特徴です。

#### <凍害の対策>

地上30cm以上の場所で接いだ高接ぎ苗を使う、樹勢が強めに保つ、暗きよや明きよの施工、高畝や高盛栽培で土壌水分を下げる(干ばつには注意)、などの対策があります。また、「株ゆるめ(断根)処理」によって苗木の細根を切断し、吸水を抑えることで、樹の枝水分を低く保ち、耐凍性を高めることが期待できます。一方、樹幹に白塗布剤を塗ったりワラを巻いたりしても、効果は期待できません。

#### <株ゆるめ処理の方法>

植え付け1年目の幼木の場合、茶用反転ぐわを用います。株元から20cm離れて斜めにくわを差し込み、株がきっちり動くまで「テコの力」で持ち上げ、最後に軽く株元を踏みつけます。ゆするとグラグラする樹は、根の張りが悪いので処理しません。

2年生以上の幼木の場合は、油圧ショベルを用います。株元から半径80～100cm、深さ40～50cm内の根域土壌全体に多数の亀裂を生じさせるようにします。根域全体に施すことが必要で、バケツを数回に分けて入れ、根域土壌を抱きかかえるような感覚で力を加え、樹全体が少し傾き、株が10cm位持ち上がる程度を目安とします。2～3年生樹なら0.8～1.5tの油圧ショベル、4年生樹程度なら2～3tで処理可能です。

株ゆるめ処理の時期は、11月中、遅くとも年内には終わらせます。また、処理した幼木は、断根しているため干ばつに弱くなります。翌年4月以降に、かん水や有機物マルチで乾燥防止対策を徹底してください。



写真1 凍害による不発芽



写真2 反転ぐわによる株ゆるめ



写真3 油圧ショベルによる株ゆるめ

### 『豊作の手はじめは、土づくり!』

水稻をはじめすべての作物を栽培していくうえで、土づくりは重要です。土づくりをすることで水はけや水もち、通気性、保肥力などの改善がはかれます。また近年の集中豪雨や高温干ばつなどの異常気象の際にも被害を最小限にとどめることが期待できます。次年度の作付けに向けて右記を参考に土づくりを行いましょ。

#### (作物別土づくり資材の施用量)

作物	資材名	施用量(10a当り)
水 稲	堆肥(又はアヅミン)	2,000kg(40kg)
	土力の達人	80kg
黒大豆、黒枝豆	堆肥(又はアヅミン)	2,000kg(40kg)
	ハレー-28	200kg
山 の 芋	堆肥(又はアヅミン)	2,000kg(40kg)
	ミネカリンP-3	400kg
小 豆	堆肥(又はアヅミン)	2,000kg(40kg)

今後の

24時間OK/

農業技術テレホンサービス  
電話:079-556-3384

9月11日▶9月24日

玉ねぎ栽培の  
ポイント

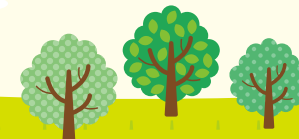
9月25日▶10月8日

黒大豆枝豆の  
収穫と荷造り

10月9日▶10月22日

小豆の  
収穫と乾燥

丹波篠山農産物相談・研究センター 開所日時:月・水・金の週3日 10:00～12:00 (ただし祝日・年末年始を除く)



### うすいえんどう

#### 作型・ほ場選定・ほ場準備



現在J A丹波ささやまでは、振興作物「丹波篠山うすいえんどう」のブランド化に向けて、栽培面積の拡大を図っています。

うすいえんどうは、水稻の後作に栽培が可能で農地の有効利用ができ、高齢者や女性にも栽培しやすい軽量作物です。また、他産地の端境期に出荷できることから、単価も比較的安定して

おり、春先の収入源として見込める作物です。

丹波篠山うすいえんどうは、需要が高く、まだまだ生産量が足りない状況です。J Aと一緒にうすいえんどう栽培に取り組んでみませんか。

#### ◎作型

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
作型		●	—	—	—	—	—	—	■	
作業	耕起・元肥	播種					摘心・支柱・ネット張り 間引き・誘引	誘引	収穫	
			← 追肥・防除・わき芽取り →							

#### 【ほ場選定】

- ・えんどうは連作を嫌う作物です。うすいえんどう(又はつる性の豆類:きぬさやえんどう、スナップえんどう等)を5年以上作付けしていないほ場を選びましょう。
- ・えんどうは直根性で、水が溜まると根痛みの原因になるため、排水の良いほ場を選びましょう。排水対策として、①畝高を30cm以上にする。②ほ場の短辺に畝をとる。③50m以上の長い畝の場合は途中で切る、等を実施しましょう。
- ・日当たりの良いほ場を選びましょう。

#### 【ほ場準備】

- ・10月中旬のほ場が良く乾いた時に(別表1)を参考に元肥を施用し耕うんしましょう。
- ※元肥で窒素肥料を多く入れすぎると冬期に大きくなりすぎ、霜害で生長点が傷んでしまうことがあるため注意しましょう。冬を越すまではあまり大きくしないこと(本葉2～3枚程度)がポイントになります。



(別表1)

肥料名	元肥(10a当り)	成分量(kg)		
	施用量(kg)	窒素(N)	リン酸(P)	カリ(K)
完熟堆肥(またはアヅミン)	2,000(40)			
有機石灰セルカ(アルカリ46%)	120			
パワーリン(P30%、Mg3%、腐植酸17%)	60		18	
やさいばたけ(N10%、P10%、K10%)	60	6	6	6

#### 【除草剤】

時期の目安	適用雑草	農薬名	10a当り使用量		使用時期	使用回数
			薬量	散布液量		
9月下旬まで	一年生雑草	ラウンドアップマックスロード	200～500ml	50～100ℓ	耕起前まで(雑草生育期)	1回
～10月下旬	一年生雑草	バスタ液剤	300～500ml	100～150ℓ	播種前(雑草生育期)	3回以内